

所 信

一般社団法人藤枝青年会議所

第61代理事長 高井友輔

はじめに

「青年としての英知と勇氣と情熱を持って明るい豊かな社会を築き上げよう」私は、この言葉に大変感銘を受けると共に、終わりが無いその理念の奥深さに畏敬の念を抱かされます。

2020年に藤枝青年会議所へ入会し、早4年が経過しました。J.C歴5年目の若輩者の私ではありますが、この4年間は私にとって挑戦の連続でした。単年度制で変化する立場や活動は、全てが初めての経験で戸惑いや不安と闘いながらも、諸先輩方に励まされ仲間を支えられながらも、英知と勇氣と情熱を持ってここまで邁進してきました。沢山の苦勞と失敗もありましたが、地域社会への奉仕を通じて、多くの経験と真の友情という報酬を得る事ができました。全て無駄なことはなく、糧となって今の私に繋がっているのであると確信しています。

1964年8月8日に藤枝青年会議所が創立し、今年で61周年を迎えます。昨年60周年という大きな節目を迎えることが出来たことへの感謝を胸に、日々変わりゆく時代の流れを感じながら、終わりのない理念に向かって我々は邁進していかなければなりません。そして、この理念に沿った活動を続けるためには、現状に満足することなく相互の啓発と社会への奉仕を通じて、会員一人ひとりが学び、挑戦し仲間と共に成長を続ける必要があります。

異文化を知り、新たなる境地へ

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックによって、様々な交流の機会が失われました。特にコロナ禍の拡大に伴い、国際的な移動制限、国境閉鎖、隔離措置などが導入されたことで、国際交流活動に大きな影響が及びました。未だに終わりの見えないコロナ禍ではありますが、昨今ようやく規制が緩和され徐々に以前のような生活に近づきつつあります。しかし、制限されたこの数年間が成長期である青少年にとって、大変貴重な時間であることは間違いありません。今こそ青年会議所の英知と勇氣と情熱を駆使し、未来を担う少年少女に希薄となってしまった国際交流の機会が必要ではないでしょうか。コロナ禍でも一部の国際交流はオンラインで続けられてはいます。オンライン交流も便利ではありますが、人と人が触れ合うからこそ生まれる新しい気付きや発見があるはずで、人は人によって磨かれ、さらに成長していきます。国際交流を通じ

て、異文化を知ることで新たな知識と他者への理解と共感の感覚を養い、心の成長へと繋がります。そして、藤枝での暮らしは家族や地域などの身近な人々によって支えられ成り立っていることを実感していただき、周囲の方々への感謝と愛着を増やしていく運動をしていきます。

新たな仲間の開拓

現在、藤枝青年会議所には60名を超える会員が在籍しています。他の青年会議所と比較したとき、これは決して少ない会員数ではありません。しかし、青年会議所の特徴として40歳で卒業という規則があります。今年度は10名、来年には14名、再来年には10名が卒業していく現状があります。我々は、現状に甘んじることなく様々な戦略やアプローチを試みて、まちの発展と藤枝青年会議所を成長させる新たな仲間を求めていきます。そのためにも、我々の日々の活動を記録するとともに、広く発信しなければなりません。日々の活動を継続して発信し続けることで、我々の活動に信用が生まれ、やがては藤枝青年会議所の新たな仲間を獲得できると信じています。

そして、迎え入れた会員が、「明るい豊かな社会を築きあげよう」この志を同じうする仲間となるべく、JC活動への積極的な参加を促す必要があります。我々の活動を通じて同期の友情を育み、常に新しいことへ挑戦をする次代のリーダーを育成していく必要があります。

互いに尊敬し合える仲間づくり

藤枝青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現という理念のために、これまで様々な活動を皆で助け合い協力しながら邁進してきました。これは会員同士が同じ時間を共有し、絆を深めてきたからこそ成し得ることができたのだと考えます。

しかしながら、仕事の都合や家族からの理解や協力が得られず参加意識が希薄となっている会員も散見されます。

青年会議所の魅力の一つは、利害関係のない立場で様々な職種の人が同じ志をもって活動していきながら、絆を深めていくことでもあります。一人ひとりが輝くことによって、その魅力は何倍にも大きくなるはずで、そこで今一度参加意識が希薄となっている会員の参加を促し、会員同士が知り得る機会を創出していく必要があります。

互いを深く知ることで、初めて尊敬し合える関係性を築いていくことができます。今後の活動をさらに大きく展開していくためにも仲間を認め合う心は必要不可欠であり、自己の成長に繋がるのだと信じています。そして会員一人ひとりの輝く個性が調和する未来を目指していきます。

先進的な技術を活用したJC運動と組織運営

近年、社会全体でデジタル化が進む中、藤枝青年会議所でも諸先輩方から受け継がれてきた運営方法を大切に守りながらも、時代に合わせた組織運営を目指して新たなデジタルツールを取り入れて参りました。その中で、今の時代には合わないもの、今の時代だからこそ必要なものが徐々に増えてきました。withコロナからafterコロナへ移り変わったように、変化していく時代にあった効率性の高い組織運営を目指していきます。

そして、青年会議所がこれからの次代にも必要とされる団体であるためには、我々がこのまちの為にどのような活動をしているか地域社会に向けて広く発信していくことが必要です。我々は先進的な技術を活用し、藤枝青年会議所をより良く理解をしていただく為の運動を行ってまいります。

魅力ある大人の育成

魅力ある大人と聞いたとき、どのような人物を想像しますか。美しい立ち振る舞い、整った身なりなどの外見も大切ですが、自信をもって行動し他人を尊重できる内面の部分も重要であると考えます。20歳から40歳が集う我々青年経済人は、まだまだ未熟な存在であります。藤枝青年会議所が、地域のリーダーとして社会により良い変化をもたせられる存在を目指して新しい経験を積極的に受け入れ、魅力ある大人へと成長していく必要があります。さらに魅力ある大人とは何なのかを日々探求し、JAYCEEとして次代のリーダーとなれるよう我々は成長し続けていかなければなりません。

おもてなしの心から生まれる人間関係

2022年に勃発したロシア・ウクライナ戦争。ロシア側の主張を言えば、ロシアに対する欧米の脅威に対抗するという「正当防衛」と言っていますが、その真偽は分かりません。確実に言えることは、この戦争によって大勢の子供や一般人の尊い命が犠牲となり、全世界の経済へも大打撃を与えたということです。主義、主張、立場が違ってもお互いを尊重し、思いやる心で接することができていれば、もう少し変わっていたのかもしれない。

「おもてなし」の心は、相手の立場や気持ちを尊重し、思いやりのある態度を示すことです。その姿勢はJC活動に留まらず、普段の日常においても人間関係をより良くするために重要な要素であります。

藤枝青年会議所は諸先輩方や関係各所の様々なお力添えによって昨年60周年という大きな節目を乗り越えることが出来ました。そして、再び次の周年に向けて歩を進めていかななくてはなりません。2024年は、1976年から続く4JCゴルフ・サッカー大会

を藤枝青年会議所が主管として、藤枝の地にて開催します。4J.Cの絆を深めるべく始まった歴史ある今大会を、絶やすことなく後世に伝えていく必要があるため、まずは多くの会員が積極的に参加出来る体制を整えます。そして「おもてなし」の心で広報活動から真摯に取り組み、多くの方に参加して貰えるように促します。真剣に取り組んだ先に、良好な人間関係の構築と、会員同士の絆が深まることを信じて邁進して参ります。

まちの新たなる魅力の開拓

わがまち藤枝には、既に多くの魅力が存在します。市内の7割を占める豊かな自然、歴史的な名所、朝ラーメンをはじめとした食文化など、多岐にわたります。しかし、そんな魅力ある藤枝市でも2015年をピークに人口は減少に転じており、今後も一定の人口減少が進行していくと見込まれています。全国的な少子高齢化による人口減少の波に加え、地元企業への就職率の低迷、就職時の県外への大幅な若者の流出など、人口減少の課題を解決する道筋は未だできておりません。

そのような現状の中、果たしてわがまち藤枝の魅力は地域社会へ広く知られているのだろうか。必要としているニーズに届いているのだろうか。まだまだ埋もれてしまっている魅力があるのではないだろうか。

2024年藤枝市は市政70年を迎えます。今一度この記念すべき節目の年に、我がまちの実態を調査し、研究をしてみる必要があるのではないのでしょうか。そして、未だ眠っている新たな魅力を開拓し、青年らしい創造力で新たな魅力の種を地域社会へ力強く発信していきます。そして、このまちの未来に貢献していくような夢のある運動を展開してまいります。

むすびに

昨年、周年という激動の年を終えた藤枝青年会議所ですが、私は歩みをとめるつもりは一切ございません。これまで諸先輩方が築き上げた素晴らしい歴史に新たな一歩を踏み出すべく、「明るい豊かな社会」の実現に向けて仲間と共に自身の限界に挑戦し続けます。これから幾多の修練があるかと思えます。そんな時には仲間に頼り、信じ、助け合い、共に乗り越えた先に自身の成長と強い友情が得られるのだと信じています。共に新たなる境地へ向かって邁進して参りましょう。

スローガン

共に、新境地へ

基本運営方針

1. 異文化から学び、次代の藤枝に繋げる事業
2. 新たな仲間の開拓と友情の育成
3. 互いに尊敬し合う仲間づくり
4. 先進的な技術を活用したJ C運動と組織運営の実施
5. 魅力ある大人を育成する事業
6. おもてなしの心から生まれる信頼関係の構築
7. まちの新たな魅力を開拓する事業